

# 技術士 2 次試験に合格して



**亀岡 雅史**

(かめおか まさし)

## 勤務先

株式会社 福田水文センター

調査部

〒001-0024 札幌市北区北 24 条西 15 丁目 2 番 5 号

TEL 011-736-2371 FAX 011-736-2393

E-mail m-kameoka@f-suimon.co.jp

■ 専門：建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋)

## 1. 自己紹介

私は 1966 年(昭和 41 年)に極寒で有名な名寄市で生まれました。その後、昭和 63 年に北海道測量専門学校製図科を卒業し、旭川市にあります測量会社に入社しました。

入社後 4 年を経過し、フィールド作業への興味も沸き、家庭の諸事情もあって、現在所属しております(株)福田水文センターに入社しました。現在は主に河川の流量観測や試験・測量、ダム貯水池に関する水質調査、土砂管理に係る業務に従事しております。

## 2. 技術士試験に至る経緯について

入社当時、私が担当していた業務は現在ほど資格要件が厳しくなく、ある程度の経験があれば業務の担当者を務めることが出来ました。当時は「技術士」の概要すら知らなかったと思います。

拙い記憶では平成 14 年以降、業務担当に関する資格要件が厳しく求められるようになったと思います。

当時ほぼ無資格であった私は、必要に迫られるように測量士補、測量士、RCCM を順次取得したのち、担当業務の拡大を目指し、チャレンジのつもりで技術士試験に臨みました。

### (1) 一次試験について

一次試験は平成 18 年度から着手し、平成 21 年度によろやく合格できました。

当時の試験制度では、指定国家資格(測量士)を取得していたことから共通科目は免除でしたが、他の資格試験にはない専門性や倫理等の幅の広さに加え、過去問だけでは対応できない時事に関する問題に苦勞しました。

### (2) 二次筆記試験について

二次試験は平成 22 年度から着手し、平成 28 年度に合格と、実に 7 年を費やしました。

技術士試験は与えられた条件に基づき問題点や課

題の抽出・解決を文章で表すという、私の普段の生活や業務においては、ほとんど経験のないプロセスが求められました。お恥ずかしいことですが、私にとっては極めて苦手な行為ですので、論理的な考察や文章表現とはどのようなことを社内外の先輩技術士の方々から様々な指導を受けました。

試験本番は、とにかく普段から書き慣れない記述量の多さに苦勞しました。PC(ワープロ)普及による記述力低下の弊害を如実に体験した感があります。

平成 25 年度以降は建設一般に択一式試験が導入され、記述の苦勞は幾分軽減されましたが、論理的考察と文章による表現は最後まで難儀しました。

### (3) 二次口頭試験について

口頭試験に向けては、業務詳細の見直しや想定問答作成、諸先輩方の受験体験等を基に各種資料を作成、毎日のように「ブツブツ」呟いておりました。

自身の準備のほかは、社内外での模擬口頭試験や様々な対面指導を頂きました。自分の欠点は自分自身では判らないものだと痛感しております。

実際の口頭試験では、とにかく明瞭に、早口にならないように説明することを心がけました。ただし、試験官が「これは〇〇したんだよねえ」と畳み掛けてきまして、答えが「ハイ」や「イイエ」のみにならぬよう説明するのに気を使いました。

## 3. 今後の抱負

技術士資格を取得した現在、その重要性や立場については、合格前と比較して更に大きく押し掛かっている気分です。

今後は、その重圧に負けぬよう、自己研鑽を継続し、様々なものを吸収して、より良い業務成果が提出できるよう努めたいと思います。

最後に、これまで親身になって御指導頂きました諸先輩技術士の皆様に厚く御礼を申し上げます。